

(3) 高知港を利用し農林水産物を輸出 するための課題抽出

平成30年2月26日

四国地方整備局 港湾空港部

輸出促進の課題と対応策・支援機関の例

段階	課題	支援策(例)	支援機関(例)
生産	産地連携	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者アライアンス ・地域ブランド 	JA、商社
	定常的な出荷量の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・GAP、HACCP等の規格取得 ・鮮度保持技術(冷凍・冷蔵倉庫) ・IoT技術によるプラットフォーム構築 	倉庫業者、IoT企業
	輸出意欲の啓発	輸出啓発セミナー開催	JETRO
市場開拓	・マーケット発掘、販売促進	展示会、商談会の開催	JETRO、商社
	・認知向上	PRイベント、TV、ネット広告	広告代理店
物流	・ロットの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・小口混載、宅配サービス ・鮮度保持技術(冷蔵・冷凍倉庫) ・IoT技術によるプラットフォーム構築 	フォワーダー、倉庫業者、トラック事業者
	・輸送品質の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・鮮度保持技術(専用コンテナ) ・IoT技術によるトレーサビリティ確保 	船社、フォワーダー
輸出手続き	・通関手続き、原産地証明	<ul style="list-style-type: none"> ・手続き代行 ・書類作成代行 	商社、フォワーダー、商工会議所
	・成分検査・表示		
	・和文現地語訳		
代金回収	・輸送時の事故、バイヤー倒産	損害保険、加入促進	損害保険会社
	・代金回収リスク	決済代行等	商社、銀行

可能性① 出荷量の多い品目の海上輸送(航空輸送からの転換)

荷物の責任範囲

現状：「青果ゆず」輸出の荷物の流れ

(平成29年に合計8トン、成田経由で4回程度輸出※。)



単独でコンテナ1本分の出荷量があるため、
航空輸送から高知港発の海上輸送への転換による
物流コストを低減できる可能性

想定：高知港を利用する場合（海上輸送への転換）



課題①
社によるルート選択
(物流コストとリードタイムの経済性)

課題②
長時間輸送による品質劣化
(航空輸送と比較して40日程度長い)
週1便のため輸送機会も制約を受ける

検討課題：①高知港から海上輸送する場合の経済性
②鮮度保持にかかる技術

可能性② 高知県園芸連の一元集荷体制を活用した多品目の海上輸送

荷物の責任範囲

現状：高知県園芸連を経由する輸出の荷物の流れ

(ミカン4,500kg、メロン926kg、ミヨウガ318kgを輸出※)



高知港からの輸出することで、
物流コスト低減やドライバー不足の軽減をできる可能性

想定：高知港を利用する場合



検討課題：北海道国際流通機構(HIDO)等他地域の農水品輸出を
支援する組織と商流面の連携方法

※高知県資料より